

日本社会分析学会ニューズレター

2022年3号 [2022年9月27日発行]

発行：日本社会分析学会事務局
〒753-8511 山口市吉田1677-1
山口大学人文学部 桑畑研究室内
編集責任者：桑畑 洋一郎(事務局長)

Tel:083-933-5242(研究室直通)
E-mail: sasa@jsasa.org
ホームページ: <http://jsasa.org/>
郵便振替口座:01740-0-49579
(名義)日本社会分析学会

◆研究例会の報告と予定

1. 第143回例会(2022年7月23-24日、松山大学)は盛会に終わりました。開催校の皆様と、ご参集いただいた皆様に感謝申し上げます。
2. 次回、**第144回例会は、2022年12月17日(土)-18日(日)、中村学園大学(福岡市城南区別府5丁目7-1)**にて開催します。ハイブリッド形式とします。詳細はプログラムとともに次号ニュースでご案内します。なお、コロナ禍や申し込みの状況によって、オンライン開催等に変更する可能性があります。適宜アナウンスしますので、ご注意ください。

◆第144回例会【研究報告】募集

次回例会で研究報告をご希望の方は、**報告者名、報告タイトル、報告時間を11月18日(金)必着で事務局まで**、お知らせください(郵送または電子メール)。対面のみの場合に報告、ないし、オンラインの場合にのみ報告、というご希望があればその点も明記してください。

報告時間は以下のいずれかを選んでください(指定がなければSとします)。

S:持ち時間30分(標準は報告20分+質疑応答10分)

L:持ち時間60分(標準は報告30分+質疑応答30分)

また、使用予定の機器を報告申込み時にお知らせください。

◆『社会分析』50号【一般投稿論文】募集中

◎一般投稿論文は、**原稿〆切10月1日**で募集中です。送付先は下記です。

原稿提出期限：**2022年10月1日(土)必着**

原稿送付先：学会事務局(メールまたは郵送で受け付け)

※メールでの投稿の場合は、sasa@jsasa.orgまで、原稿等のファイルを添付の上お送りください。事務局から受付確認のための返信を行いますので、事務局からの返信がない場合はお問い合わせください。

※郵送での投稿の場合は、投稿時には、原稿等の電子ファイルが入ったメディアを送付記録が残る方法でお送りください。また、封筒に「一般投稿論文」とご明記ください(メディアの返送をご希望の方はその旨明記ください)。

◎特集論文については一般投稿の募集はしておりません。

『社会分析』へ論文を投稿される方へ

1. 投稿に際しては、『社会分析』表紙裏の「**投稿規定(2019年改訂版)**」を遵守してください。
2. 英語で書かれた論文を投稿される場合には、必ず英語を母語とする方のチェックを受けたいえで、ご投稿下さい。英文タイトルについても、同様のチェックをお願いします。
3. 日本語を母語としない執筆者が日本語で投稿する場合には、必ず日本語を母語とする方のチェックを受けたいえで、ご投稿下さい。日本語タイトルについても、同様のチェックをお願いします。
4. 内容水準以前の形式的な点が守られていない原稿については、受理を保留して差し戻すことがあります。また、差し戻しに対して投稿者から迅速かつ適切な対応がなされない場合には、受理できない場合があります。

論文審査について

投稿された論文はすべて審査者2名による論文審査にかかります。審査者は編集委員ないし会員の中から適当な方をお願いします。編集委員長・特集担当者から依頼が参りますので、よろしくお願ひ致します。審査と改訂はそれぞれ2回までを原則とし、年明け1月末までに編集を終えるべく、おおよそ以下のような日程で動きます。

初回審査(審査員)	4週間以内
→初回改訂(執筆者)	4週間以内
→第2回審査(審査員)	2週間以内
→第2回改訂(執筆者)	2週間以内
→最終的な掲載可否判断(編集委員会、特集担当者)	

審査者には審査論文とともに「論文審査票」をお送りしますので、それにしたがってできるだけ迅速にご協力ください。なお審査に当たっては、投稿者をエンカレッジする姿勢でお願ひ致します。立場や見解の違いは(アドバイスになるようなものは別として)、基本的には論文公開後の論争として展開いただき、審査においては「論文」としての完成度を高めることに主眼をおいていただきますよう、お願ひ致します。

〈書式統一へのご協力を〉

雑誌の書式統一のため、投稿者・査読者には以下の点で協力をお願いします。

- ◆ 投稿者は、投稿規定を遵守すること。(必ず『社会学評論スタイルガイド』をご参照ください。)
- ◆ 査読者は、投稿規定に準じた形式面のチェックも十分に行うこと。
- ◆ 投稿者は初回投稿時、原稿ファイルとともに執筆者情報のファイルを提出すること。
- ◆ 最終的には編集委員会で形式統一を行うので、最終稿の印字イメージと出来上がりイメージが異なることがある。この点をご了承いただきたいこと。

2022年度総会報告（2022年7月23日、松山大学）

●報告事項

(1) 庶務報告

- ・会員数 132 名（前年度 146 名）
（購読会員 1 名 [前年度 1 件]、購読機関 30 件 [前年度 31 件]、寄贈機関 3 件 [前年度 3 件]）

・活動状況

例会 2021年7月24日・25日 第141回例会（広島大学※ハイブリッド）

2021年12月11・12日 第142回例会（山口大学※ハイブリッド）

理事会 2021年7月24日（ハイブリッド）

ニュース 4回発行

- ・今後とも学会活動の活性化のためにシンポジウム・講演等の企画を積極的にご提案いただきたい。

(2) 編集報告

- ・『社会分析』49号を2022年3月31日付で発行。

特集：「緊急事態下における生活の変容と不変」：桑畑洋一郎会員に企画・編集を依頼。解題および4本の論文を掲載。

一般投稿：論文1本の投稿があり、審査の結果、論文1本の掲載。

書評：会員著作の書評6本を掲載した。

- ・『社会分析』50号（2023年3月発行予定）について。

特集「リスク社会を生きる私たちと社会学（仮）」：速水聖子会員に解題・コーディネートを依頼。

一般投稿：原稿提出期限10月1日（提出先：学会事務局）。

書評：対象書籍の推薦（自薦・他薦）、提出期限8月31日（提出先：学会事務局）。

(3) その他

●審議事項

(1) 新入会員（2021年7月25日以降）承認

易 朗韻（い ろういん）

推薦者：山下 亜紀子

藤田 智子（ふじた ともこ）

推薦者：三隅 一人

李 睿（り えい）

推薦者：三隅 一人

八木 寛之（やぎ ひろゆき）

推薦者：吉田 全宏

南出 葉歩（みなみで しほ）

推薦者：山下 亜紀子

山田 真理子（やまだ まりこ）

推薦者：高野 和良

鄭 シ儀（てい しぎ）

推薦者：高野 和良

楊 浚哲（よう しゅんてつ）

推薦者：山下 亜紀子

是澤 宏美（これさわ ひろみ）

推薦者：高木 健志

篠原 遼子（しのはら りょうこ）

推薦者：高野 和良

(2) 2021 年度決算（含、監査報告）

◎会計資料

2021 年度決算報告※1

	項目	予算(円)※2	決算(円)	備考
収入の部	学会費	700,000	605,000	会費 121 件
	購読料	67,200	56,700	27 件
	利子、その他	25	18	ゆうちょ銀行、福岡銀行
	本年度収入合計	767,225	661,718	
	前年度繰越金	3,934,370	3,934,370	
	総計	4,701,595	4,596,088	
支出の部	雑誌印刷費	400,000	405,716	49 号 200 部（発送委託費含む）
	編集費	60,000	55,230	編集担当・特集執筆謝金、書評対象書籍代
	通信費	60,000	90,588	ニューズレター・機関誌等郵送代
	事務局費	50,000	99,599	アルバイト費用、振込手数料、zoom pro 契約費用等
	事務委託費	75,000	71,500	ホームページ管理
	例会・会議費	80,000	9,200	例会開催費
	企画事業費	550,000	200,000	『生活からみる社会のすがた』88 冊買取
	予備費	40,000	40,000	社会福祉系学会連合会費、社会学系コンソーシアム会費（2 年分）
	本年度支出合計	1,315,000	971,833	
	次年度繰越金	3,386,595	3624,255	
	総計	4,701,595	4,596,088	

※1 収入・支出とも 2022 年 6 月 30 日締。

監査報告

会計帳簿、預金通帳、現金、その他関係証拠について精査しましたところ、適正に処理されておりましたことを報告いたします。

2022 年 7 月 17 日

会計監査

山下 亜紀子



会計監査

牧野厚史



(3) 2022 年度予算案

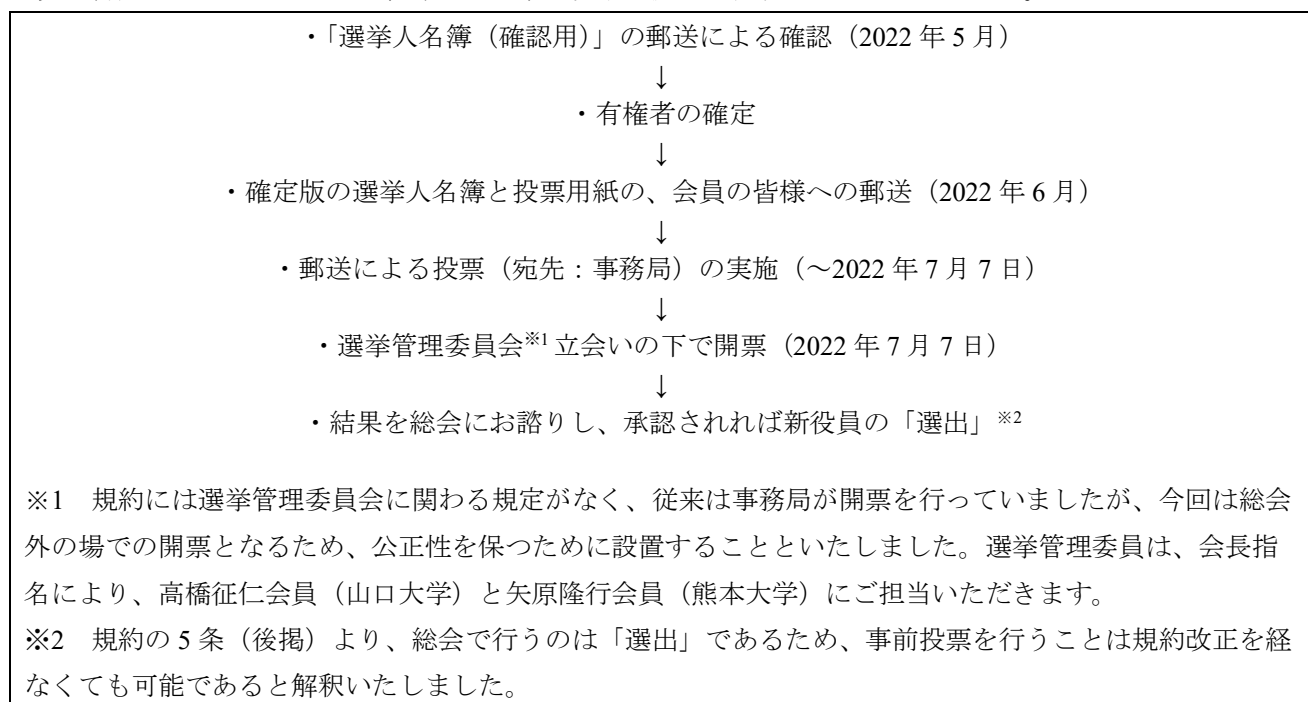
	項 目	予 算 (円)	備 考
収 入 の 部	学 会 費	650,000	会費 130 件
	購 読 料	65,100	31 件
	利子、その他	20	ゆうちょ銀行、福岡銀行
	本年度収入合計	715,120	
	前年度繰越金	3,624,255	
	総 計	4,339,375	
支 出 の 部	雑誌印刷費	400,000	50 号 200 部 (抜刷、発送委託費含む)
	編 集 費	60,000	編集担当者経費、特集謝金、書評対象書籍代
	通 信 費	60,000	ニューズレター・機関誌郵送代
	事務局費	50,000	アルバイト費用、振込手数料、zoom pro 契約
	事務委託費	75,000	ホームページ管理
	例会・会議費	80,000	例会開催費
	企画事業費	450,000	シンポジウム経費等、出版経費
	予 備 費	100,000	社会学系コンソーシアム会費、社会福祉系学会連合会費、名簿印刷費用
	本年度支出合計	1,275,000	
	次年度繰越金	3,064,375	
	総 計	4,339,375	

(4) 役員選挙

今回の総会では、まず選挙方式の件を、続いて規約改正の件につきまして事後承認をうかがい、そのうえで、選挙結果の承認をうかがいます。

・選挙方式の承認

既に書面でお諮りしましたが、今回の選挙は以下の流れで行うことといたしました。



なお、ご異議等（2022年6月8日必着）はございませんでした。

・選挙規約（規約第5条）の改正の承認

※規約（2022年改正）の抜粋

5.本会に次の役員をおきます。

会長 1名

理事 6名（会長の指名により、うち3名は、庶務・会計・編集を担当する常任理事とします）

監査 2名

編集委員 若干名（理事会が選任します）

事務局長 1名（会長が指名します）

会長・理事・監査は、総会において会員中より選出し、理事・監査はそれぞれ選出時点において同一大学等から複数選出はしないものとします。会長、理事、監査の任期は3年とし、それぞれ連続6年を越えて在任し続けることはできないものとします。また任期の途中で欠員を生じた場合に補充選出される役員の任期は、前任者の残任期間とします。

※ご参考

2022 年改正規約（下線部が改正部です）	以前の規約
<u>会長、理事、監査の任期は3年とし、それぞれ連続6年を越えて在任し続けることはできないもの</u> とします。	役員任期は3年とし、再任を妨げません。

この規約改正は今回の選挙から適用いたしますが、今回の2022年度役員選挙に適用した場合、現6名の理事のうち5名が理事の被選挙権を持たないこととなりますため、会務の継承性を考慮し、現6名の理事のうち在任期間が短い2名（在任期間が同年の場合は年少の者）は今回の選挙に限り、理事の被選挙権を持つものとさせていただきます（規約の改正に伴う移行措置ですので、今回の選挙に限ります）。以上の規約改正につきましても書面でお諮りしましたところ、ご異議等はございませんでした。

選挙は郵送投票（投票用紙は、選挙権を有する会員にニューズレター6月号と同送）により、2022年7月7日午前10時を締め切りとし、開票作業を同日13時より、選挙管理委員（高橋征仁会員、矢原隆行会員）お立会いの下行いました。結果は次表の通りです。

役員選挙結果※有効投票 25 票、無効投票 2 票（期限を越えて到着したため）

	当選	次点・次々点等
会長選挙	稲月正（17 票）	山本努（4 票） 矢原隆行（2 票）
理事選挙	速水聖子（19 票） 高野和良（17 票） 江頭大蔵（8 票） 牧野厚史（8 票） 室井研二（8 票） 堤圭史郎（4 票）	山下亜紀子（12 票）※同一機関規定 桑畑洋一郎（9 票）※同一機関規定 三隅一人（9 票）※同一機関規定 矢原隆行（4 票）※同一機関規定 横田尚俊（4 票）※同一機関規定 吉武由彩（4 票）※同一機関規定 益田仁（4 票）※協議
監査選挙	加来和典（6 票） 吉武由彩（3 票）	稲月正（3 票）※既選出：会長 江頭大蔵（3 票）※既選出：理事 桑畑洋一郎（3 票）※協議 山本努（3 票）※協議 横田尚俊（3 票）※協議

選挙管理委員会報告

日本社会分析学会 2022 年役員選挙選挙管理委員会として、2022 年 7 月 7 日
13 時より山口大学にて実施された開票に立ち会いました。開票は問題なく適正
に実施されましたことをここに報告いたします。

2022 年 7 月 7 日

選挙管理委員会委員

矢原 隆行



選挙管理委員会委員

山下 亜紀子



(5) その他

- ・今後の例会について
- ・今後の特集論文テーマについて